

「災害から命を救うために」

青森県 八戸市立三条小学校 4年 ^{あかいし とわ}赤石 翔和

「うわあ。すごいなあ今から何が始まるんだろう。」

8月30日、馬淵川河川とぼくの通う三条小学校を会場にして、八戸市総合防災訓練が行われました。ぼくたち三条小学校の4年生は、運よくこの訓練を見学することができるのです。ぼくは、わくわくしていました。

学校からバスに乗り馬淵川河川ステーションに着きました。川の近くに大きな広場があり、たくさんの人たちがいました。ぼくは、いつの間にこんなすごいしせつが出来たんだろうとびっくりしました。

みんなでおくの方に歩いて行くと、テントや車、バイクがありました。その中で一番気になったのは、土の山です。なぜなのか、車と家がうまっていました。先生に聞くと、「これは、たぶん土砂災害に見たてた場所ですよ。」と、教えてくれました。ぼくは、本当にあの中に入っているのかなあと、どきどきしてきました。

係の人の案内で、前の方に進むと、馬淵川でおぼれている人を、救助する訓練が行われようとしていました。川でおぼれている人をゴムボートで助けた後、なんと、防災ヘリがやって来て、その人をつり上げてきました。すると、4年生のみんなが、「わあ、すごい。助かってよかった。」と言いながら、拍手しました。

次は、消防団による、土のう積みが始まりました。リーダーの、号れいに合わせて、次々に、みんな、真けんな顔で土のうを積んで行きます。服の背中に「上長消防団」と書いてあったので、社会科で学んだことを思いだし、知っている人がいるかなあと思いました。すると、ぼくと同じクラスのめぐみさんが、「先生、わたしのお父さんが土のう積みをしていたんですよ。」と言っていたので、こうやって、地いきの人たちもがんばっているんだなあと感心しました。

いよいよ土砂災害の訓練です。最初に見た土の山に行くと、トラックが来て一番後ろのドアから、1ぴきの救助犬が下りてきました。すると、土の山に気づき、土にうまった車の周りを行ったり来たりし、「ワンワンワン」とほえました。さっきのトラックから、5人くらい下りてきて、切だん用のチェーンソーでドアを切り、車の中の人を救助しました。そのとなりでは、チェーンソーでやねを切り、中の人を救助しました。その時、赤いバイクに乗っていた人は、何と八戸消防しょで働いている、ぼくのクラスのかなみさんのお父さんだったので、びっくりしました。こんな風にならしているんだなあと、うれしい気持ちになりました。

この訓練を見て、ぼくは、思いだしたことが2つあります。1つ目は、ぼくの町内で土砂くずれがあったことです。木の根っこがえぐれて、がけの土が道路にくずれていました。2つ目は1学期に総合の学習で、浅水川を調べた時のことです。16年前に、大雨で浅水川がはんらんして、三条学区が、大変な水害になりました。ぼくの担任の先生の家も、川のすぐそばで、床上57センチも水が上がり、家じゅうどろだらけでそうじが大変だった事を聞きました。そのことがきっかけで、ぼくの家から、浅水川放水路ができ、川が2つになったことで、川があふれることがなくなりました。

最近のテレビで、台風の時、家のやねからヘリで人が救助される所を見て、訓練と同じだなあとびっくりしました。命を救うためにがんばっている人たちに感しゃしたいです。ぼくも、大人になったら、消防団など人の役にたつ仕事をしたいと思っています。